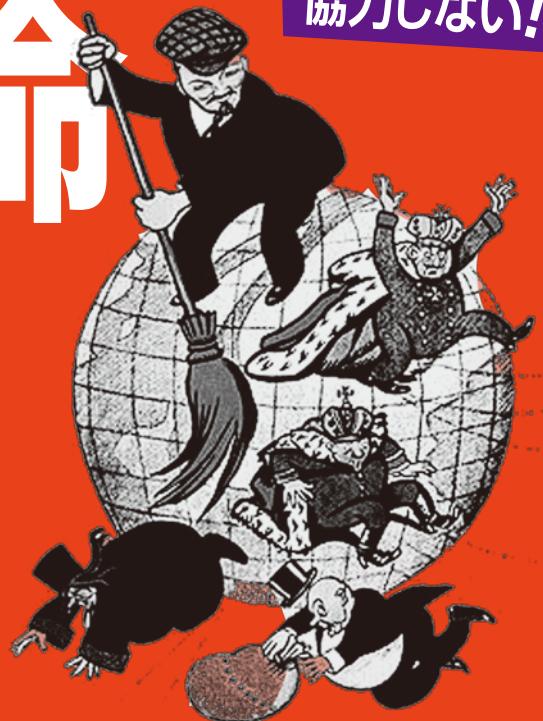




2019年度HOWS後期開講講座

ロシア十月 社会主义革命 102周年 記念集会

労働者・人民の望むのは
差別のない安心で清潔な暮らしだ!
1日8時間の労働で生きる権利だ!
資本家の
金儲けのための戦争になんか
協力しない!



2019
119
[土]

[会場] 文京シビックセンター
26階スカイホール

[開会] 14時30分 [開場] 14時15分 [資料代] 1000円

[主催] 本郷文化フォーラムワーカーズスクール (HOWS)
活動家集団 思想運動

特別上映 Salt of the Earth

『地の塩』

監督 ハーバート・ビーバーマン
製作年 1954年
上映時間 97分
製作国 アメリカ

集会プログラム

主催者挨拶

広野省三 (HOWS 事務局責任者)

映画『地の塩』上映

解説=井野茂雄 (文化活動家)

国際連帯メッセージ

キューバ、朝鮮、韓国、ギリシャ、フィリピン他

今年は1989年11月9日の「ベルリンの壁崩壊」からちょうど30年になる。「壁の崩壊」はその後、ソ連・東欧の社会主义政権の倒壊へつながった。

社会主义が強制した束縛から放たれた資本主義は、際限のない利潤獲得の衝動にかられ、世界の労働者階級と勤労人民を犠牲にする弱肉強食の野蛮な社会を出現させた。

世界の資本家階級は30年を経た今日でも、労働者階級と勤労人民に対し賃下げ、労働時間の延長、正規職から非正規職への雇用形態の変更、ストライキへの弾圧と労働組合解体攻撃、社会保障制度の改悪、教育予算の削減・奨学金の教育ローン化、若年労働者の失業、低賃金で酷使する移住労働者への奴隸的労働の強制といった攻撃をかけ続けている。

わたしたちが今年の集会で上映する映画『地の塩』は、落盤事故を契機に労働環境の改善などを要求し、ストライキで闘う鉱山労働者とその家族たちの姿を描いた実話にもとづいた作品だ。社会の根本的な変革には労働者の団結と組織的な闘いが必要なことを訴える感動の名作である。

ロシア十月社会主義革命から102年目を迎える今年の集会を通じて、社会主義が果たした役割、労働者が主体となり社会変革を担うことの必要性についてあらためて考えてみる契機にしたい。

多くの皆さんの参加を訴えます。



ハーバート・ビーバーマン Herbert Biberman

フイラデルフィア生まれ。エール大学で演劇を学ぶ。ニューヨークの左翼劇団シアター・ギルドでの演出家を経て、1935年ハリウッドに。シナリオ作家のち監督に。1947年、映画産業界で最初に起きたレッド・バージでやり玉に挙げられた「ハリウッド・テン」の1人。下院非米活動委員会(HUAC)に召喚され、証言を拒否。議会侮辱罪に問われ下獄。ハリウッドには戻れなかつた。

映画撮影中の撮影班。左から2人目がビーバーマン。

映画紹介

この劇映画はアメリカ合衆国ニューメキシコ州ペイヤードにあるニュージャージー亜鉛株式会社の鉱山で、鉱山工場精鍊労働組合第890支部が、鉱山事故を契機に「環境改善、メキシコ系労働者差別の撤廃」を掲げてストライキで15か月間闘い、組合員のピケがタフトハートレー法で禁止されたときも主婦会が代わりにピケラインを守り勝利するまでの、実話にもとづいたものである。レッド・ページでハリウッドを締め出された監督をはじめとする映画人たちが独立プロをつくり、共産主義者が幹部にいるという理由でCIO（アメリカ産別労働組合会議）を除名された当該組合が手を組んで完成させた。主人公夫婦の妻と会社側の人間以外はすべて労働者たち自身が演じている。この映画製作ならびに上映運動自体が多くの方害と困難に晒され、それ自体が抵抗であり闘いであったことは、映画製作過程を監督自分が記録した著書『地の塩』(1965年、邦訳1977年、すずさわ書店)に詳しい。

主催：本郷文化フォーラムワーカーズスクール（HOWS）
活動家集団 思想運動

TEL : 03 (5804) 1656 / FAX : 03 (5804) 1609

■会場案内

文京シビックセンター 26階スカイホール

東京都文京区春日 1-16-21 ☎03 (3812) 7111

- ①東京メトロ後楽園駅・丸ノ内線(4a・5番出口)南北線(5番出口)徒歩1分②都営地下鉄春日駅三田線・大江戸線(文京シビックセンター連絡口)徒歩1分③JR総武線水道橋駅(東口)徒歩9分